

巻 頭 言

学習院大学長 安 田 元 久

学習院大学の付置研究施設として計算機センターが正式に発足したのは昭和49年度6月のことであり、昭和58年10月には新たに現在の計算機センターの開所を見た。

それ以後、今日までセンターは全学習院における情報処理の中心とし、学問研究上のみならず事務処理の面でも大きく貢献してきている。また計算機を利用して行われる情報処理の基礎知識を習得させるため、TSS教室を開いて学生諸君の計算機実習に供し、今や本学における計算機センターの活躍は著しいものとなっている。

この間、電子計算機の性能の発達は非常な速度で進み、まさに日進月歩の感があると同時にこのすぐれた性能を広範囲に利用しての情報処理は社会全般に大きな影響を及ぼし、今やまさに情報化社会が現出しているといえよう。従って今日では、情報処理の基礎知識の習得が、大学卒業生にとって必須のものとなってきた。本学としてもますます情報科学に関する教育を充実させねばならないと痛感している。

このたび、計算機センターには新しい機種が設置された。これは本学としては第四代目の計算機となる。この機種の選定については、衆知を集め、あらゆる検討を果して、本学の研究・教育の目的に最もよく合致し、かつすぐれた性能を具えたものを導入したものと判断する。この新鋭の計算機を大いに活用しながら、新しい情報化社会にふさわしい、新時代の担い手が育成されることを切望している。そして本学の計算機センターの一層の充実を願って止まない。